



## 高崎健康福祉大学附属幼稚園 50周年特集 その3

本園のバス添乗員の〇〇先生に、当時を振り返っていただきました。

### 「春」

当時は、毎年行き先を変えて親子遠足を実施していました。観光バスに乗って観音山やグリーン牧場、森林公園、桐生が丘公園など行ってきました。観光バスに乗って行く経験が無かったのでとても楽しんでいました。

また、子どもたちと泥んこ遊びをしたり、遊具であそんだり、制作をしたりして楽しみました。

子どもたちが園に慣れた頃になると、毎月サイクリングロードを歩いて群馬の森まで行っていました。最初は子どもたちがあまり歩けなかったので、子どもたちに声をかけて励ましたり、周囲の自然に目を向けたりしながらやっと群馬の森の入り口までたどり着いていました。でも、何回か経験して歩くのに慣れてくると、子どもたちの方から「牛さんが見えたからもうすぐ着くね」という言葉も聞かれるようになり、お弁当を持って行って食べてこられる時間の余裕もでてきました。保護者からは弱音を言わなくなったり、体力がついたりして頼もしくなったと喜んでくれたことを覚えています。

じゃがいも掘りは、安中総合学園高校（旧安中蚕糸高校）までお弁当を持って小遠足のように行っていました。生徒のみんなが小さいじゃがいもを畑で茹でてくれて、子どもたちは口いっぱいにし美味しくいただいたこともありました。

給食は、今と同じく白いご飯を持って来ていただいていた。おかずは今のようなおかず2品ではなく、おかず1品と汁との併せて2品でした。短大の15人程の学生が、集団給食の実習をかねてカロリー計算をして献立を作り、調理を担当してくれました。

今で言う自校式なので温かい物は温かく、季節の食材を取り入れ、減塩の料理を美味しくいただきました。「みんなで食べるとおいしね」「いっぱい食べて元気モリモリ」子どもたちとの合い言葉のようでした。

(文責 園長)



↑ 桐生が丘公園



↑ 群馬の森でお弁当



↑ 山盛りのじゃがいも